

## 第6章 平成10年度山口大学構内の立会調査

### 第1節 吉田構内の立会調査

#### 1 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

**調査地区** 吉田構内 E・F-14、

F-13

**調査期間** 平成10年10月6・15日

**調査面積** 約180㎡

**調査結果** 平成10年分の工事として、長さ約30mについて、現地表下約6mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約2mまでが造成土で、以下で地山（弥生時代以降の遺構面形成層）及び河川堆積土を確認した。地山の直下、現地表下約2.5mでは、平成9年度<sup>1)</sup>の調査で地山の一部と考えられている

黒褐色粘土が検出された。黒褐色粘土の層厚は約60cmで、色調には濃淡があり、数層に分層できる。しかし、今回の調査でも明確な遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

九田川河川局部改良工事は、工法上、詳細な調査が困難である。今回の調査時でも、法面の一部が崩落するなどしたため、土層を詳細に確認できたわけではない。このため、今後とも周辺の埋蔵文化財の保護には慎重な対応が求められる。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）

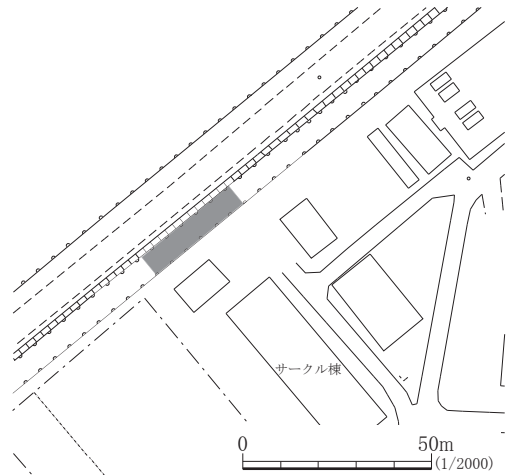


Fig.77 調査区位置図

## 2 基幹環境整備工事（バリカー新設）に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-15、I・J-20、

O-16・18、L-22

調査期間 平成10年11月20・24日、平成11年3月15日

調査面積 約3.4m<sup>2</sup>

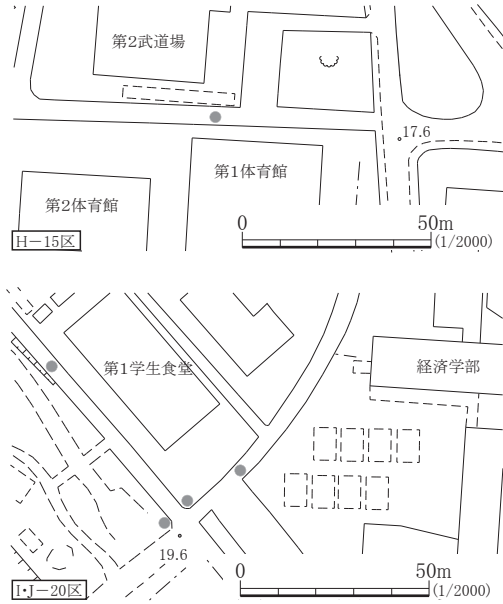


Fig.78 調査区位置図1

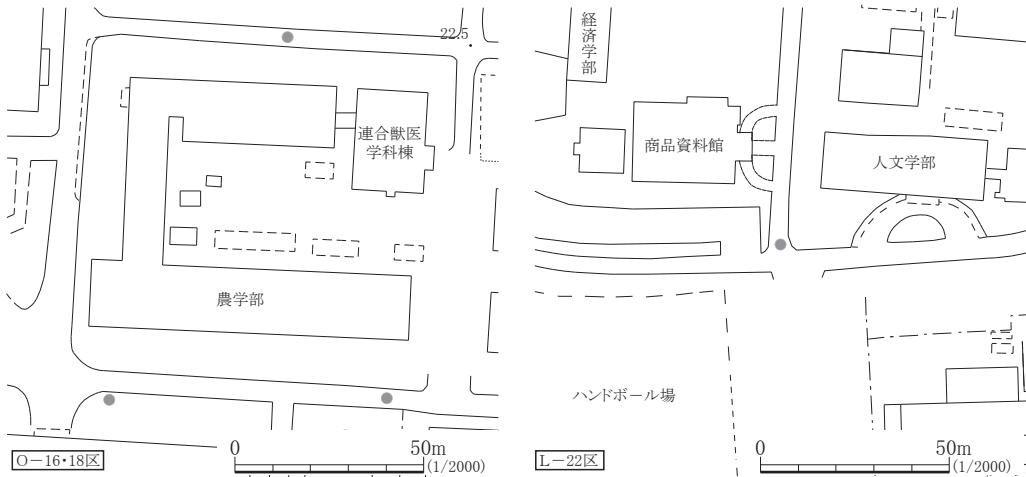


Fig.79 調査区位置図2

### 調査結果

工事は吉田構内の9箇所にとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

### 3 農学部動物用焼却炉改修工事に伴う立会調査

**調査地区** 吉田構内 Q-18

**調査期間** 平成11年1月18日

**調査面積** 約53㎡

**調査結果** 農学部動物用焼却炉改修工事に伴い立会調査を実施した。対象となった掘削工事は、ガス管新設箇所、最大で現地表下約160cmまで掘削が行われた。調査区と牧草地（現：総合研究棟敷地）の間は法面となっており、統合移転時に大規模に削平されたとみられる。調査の結果、掘削深度はいずれも造成土及び地山の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。

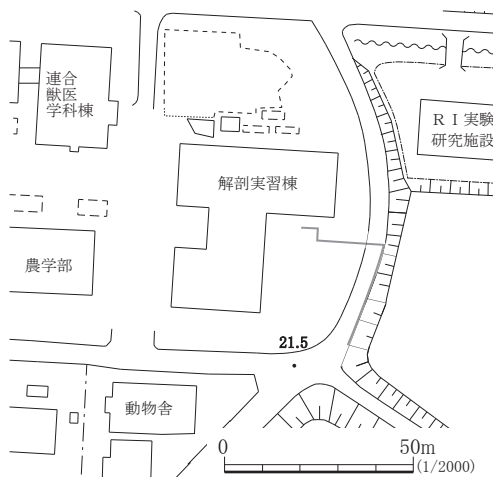


Fig.80 調査区位置図

### 4 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査

**調査地区** 吉田構内 L-17～19、M・N-18

**調査期間** 平成11年2月26日

**調査面積** 約4㎡

**調査結果** 吉田構内で基幹環境整備の一環として、6箇所を外灯が新設されることになり、立会調査を行った。掘削深度は現地表下約100～145cmであったが、攪乱が著しく、多くの地点では底面付近で地山を確認するにとどまったため、埋蔵文化財に支障はなかった。

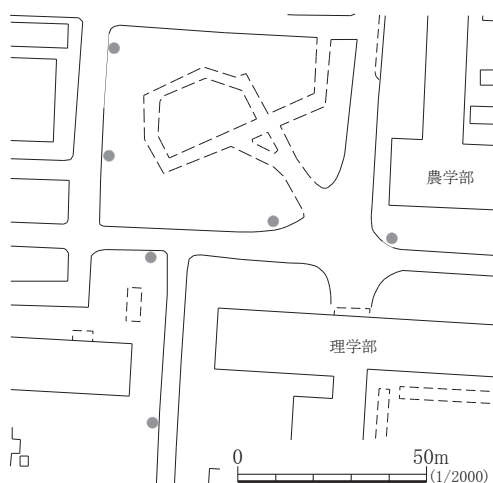


Fig.81 調査区位置図

## 5 理学部スロープ新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-18

調査期間 平成11年3月2日

調査面積 約16㎡

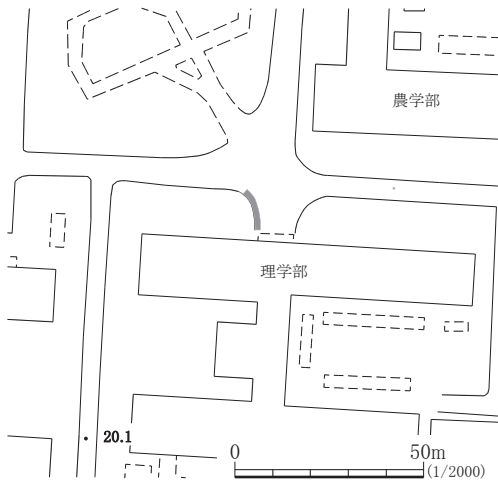


Fig.82 調査区位置図

**調査結果** 工事は理学部玄関前にスロープを新設するものである。工事による掘削はアスファルト舗装下の造成土内にとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

## 6 ステンレス回転モニュメント新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-13・14

調査期間 平成11年4月6・12日

調査面積 約27.6㎡

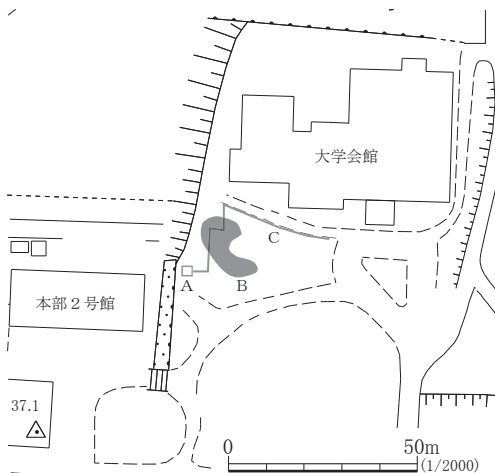


Fig.83 調査区位置図

**調査結果** 大学会館南西側の空閑地に教育学部の川口政宏教授が寄贈したステンレス回転モニュメントを設置することになり、機械室（A地点）、モニュメント本体（B地点内7箇所）、電気ケーブル（C地点）新設工事が実施された。掘削範囲は広範囲であったが、工事掘削深度は最大でも現地表下約40cmであったため、全て造成土の範囲内にとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。